

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902546		
法人名	有限会社ノースランド企画		
事業所名	グループホーム春光		
所在地	北海道旭川市春光5条6丁目5-20		
自己評価作成日	令和4年3月11日	評価結果市町村受理日	令和4年4月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigvsoyoCd=0172902546-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

旭川駅から4キロほどの、閑静な住宅街の一角に位置し、近隣には、井上靖記念館や彫刻記念館がある春光園と言う大きな公園があり、幼稚園、小学校、コンビニ3店舗、銀行や郵便局も有り、恵まれた環境の中で、9名の入居者と、10名の介護職員が家族の様に春夏秋冬を楽しみながら生活をしています。
母体の医療法人との連携により、毎日の健康管理は基より、体調不良時や、急変時には迅速な対応により安心した毎日を送っています。庭では季節の花はもちろん、トマトやサツマイモ、枝豆、秋にはブドウがたくさん実り入居者様の楽しみとなっています。10名の職員の殆どが介護福祉士、ケアマネージャー等の資格を有し、勤続10年以上のベテランばかりで、安心して介護を受けて頂けます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム春光」は、旭川市郊外の静かな住宅地に立地している1ユニットの事業所である。近くにはバス停や自然豊かな春光園、旭川市彫刻美術館などもあり住環境に恵まれている。窓に面したリビングは開放感のある造りで、利用者が好きな場所でゆっくり過ごせるように家具類の配置も工夫している。職員の提案を受けて浴室に手すりを設置することで入浴支援の負担が軽減し、利用者も湯船に浸かりやすくなるなどケアの充実と利用者の自立に向けて職員の意見が反映されている。運営推進会議では、書面会議の議事録の他、毎回「グループホーム春光新聞」で行事や利用者様の様子を伝えるなど工夫した取り組みを行っている。畑の作物や庭の葡萄を利用者と一緒に収穫して季節の味を楽しんだり、誕生日当日に職員手作りのケーキでお祝いするなど食事面での楽しみも多い事業所である。職員の離職率も少なく、情報を共有しながら温かな支援を継続して行っている。母体が医療法人のため、往診や看取りなど医療面でも充実している。感染症流行前は地域交流にも積極的に取り組み、夏祭りやバーベキューで交流したり高校生やボランティアの楽器演奏や踊りを楽しんでいる。感染症収束後は、以前のような外出事も取り入れながら近隣住民との交流も再開したいと前向きに考えているグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の引継ぎ時に、理念の復唱をし、実践に繋がっている。	ケア理念に「地域の中で共に生活できる」という、地域密着型サービスの意義を踏まえた項目が含まれている。事業所内に掲示し、外部研修を受講する職員と一緒に全職員で再確認することもある。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会のゴミ拾いや、資源ごみの回収に協力している。	感染症流行により地域住民と交流する機会はなかったが、利用者と一緒に事業所周辺のごみ拾いに参加している。感染症収束後は地域行事に参加したり、ボランティアの訪問も受け入れていきたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の、催事やお祭り等は中指ななり、参加できない。散歩中に、庭のお花を見せて貰ったり、挨拶をする程度しかできていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は、報告のみで、先方様からのご意見等は、殆ど無く、活かすまでには至っていない。	感染症流行のため職員と利用者が参加した会議を開催し、議事録と「グループホーム春光新聞」、意見や質問を聞く書面も同封している。今後は役立つ情報資料なども送付して、意見や質問が得られるように工夫したいと考えている。	実際に会議を開催する時は家族に参加を促すと共に、テーマを記載した会議案内を全家族に送付し、参加できない家族の意見や質問を事前に聞き取り会議に活かすよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所の担当の方とは、電話で用件のみとなっている。	新型コロナウイルス感染症に関する情報や対応についてFAXで連絡を受けている。感染症流行時の運営推進会議の開催方法を相談し、議事録に関して意見をもらう書面も同封するようアドバイスを受け実践している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在1名の方が、就寝時のみ4点柵を使用している。拘束と言う事ではなく、転落防止の為に、ご家族からのご希望もある為。	禁止の対象となる具体的な行為を記載したマニュアルを整備し、勉強会でも確認している。現在実施している就寝時のベッド柵使用について毎月話し合い、家族に状況を伝えている。身体拘束適正化委員会と勉強会の議事録を分かりやすく整備したいと考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束や、虐待防止の勉強会を2か月毎に行っており、お互いに注意を払って、防止するよう努めている。		

グループホーム春光

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は必要性はなく、知識として資料を見る程度。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人、ご家族の納得が得られるよう、ご説明させてもらって、ご理解が得られるよう行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでもご意見やご要望を言ってもらえる様に、ご意見箱を置き、ご来訪の時は、お話を聞く様にして、出来る限りお応え出来る様に心がけている。	面会時や電話で利用者の様子を伝えて意見や要望を聞き取り、何かあれば個別の家族ノートに記録することになっている。毎月個別のお便りを作成して家族に送付している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表は管理者や職員の話をよく聞いてくれ、出来る限りの対応をしてくれる。	管理者は、職員主体に業務やケアについて話し合える環境を整えている。職員の提案を受けて浴室に手すりを設置することで、シャワー浴をしていた利用者が浴槽に入ることができるようになった事例もある。管理者は、年1回職員と個人面談を実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表、管理者、職員の信頼関係は厚く、努力していることは認めて貰っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	取得可能な研修を、職場内で行ってくれたり、費用の援助もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列の施設や病院の職員との親睦会等、2年程行われていない。小規模の研修会で交流している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の情報等を基に、会話を密に行い寄り添う事で信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	GHでのご本人の様子を伝え、不安の解消やご要望に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	GHだけではなく、他のサービスも紹介し必要なサービスの説明も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来る事、やりたいことを一緒に行う事で、役に立っている事に満足出来る。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との交流が一番の支えで有ることを面会時やお便りでお伝えしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族のご協力を頂きながら、可能な限り面会や外出の機会を持ち、絆の維持に努めている。	感染症流行により知人が来訪することは無いが、家族と毎日手紙のやり取りをしている利用者もいる。感染状況を見ながら、家族とお墓参りに出かけた自宅や親族の家を訪問した利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席や団らんの時のその場の雰囲気に合わせて人間関係が円滑になる様努めている。		

グループホーム春光

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、悩みや相談事には、誠意をもって対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向を確認し、希望に添う様に努めている。無理な場合でも、話し合いをして理解してもらえる様に努めている。	会話や表情などから思いや意向を把握している。新たにアセスメントシートを作成しているが、生活歴や趣味、嗜好などの情報が不足している利用者もいる。	可能な限り、全員の生活歴情報を充実させるよう期待したい。センター方式シート(B-3)などを活用して趣味や嗜好を具体的に記録し、変化に応じて追記したり定期的に更新するよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前にご本人や、ご家族から詳しい情報を頂き、活用するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録により現状の把握に努め、その後のケアに活かすようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活状況を、職員間で共有して、介護計画に反映している	家族の意向を聞き取り、利用者担当職員の「具体的計画内容」に沿った評価を基に4か月ごとに介護計画を作成しているが、評価が十分反映されているとはいえない。家族の意向も具体的に聞き取り、介護計画に更に反映させたいと考えている。	「具体的計画内容」に沿って評価した細かな変化を反映させ、更に現状に即した介護計画になるよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録や引継ぎで職員間の情報の共有に努め介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問介護や提携病院の送迎など、負担無く病院の受診が出来る。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公園やコンビニを活用して運動や散歩等希望に添うよう努めている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望のかかりつけ医を確認、その他希望する医療機関を受診できるよう援助している。	かかりつけ医を継続している利用者もいるが、ほとんど協力医療機関の往診を受け、主治医の判断の下に専門医を受診している。受診記録は「医療関係連絡帳」に個別に記録し、往診はタブレット端末で管理している。	

グループホーム春光

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報を伝え、指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報交換を行い関係作りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と話し合いを行い、説明しながら方針を共有している。看取りの支援があり看取りについて、ご家族の意向確認書に記入して頂いている。	利用開始時に「重度化した場合における対応に係る指針」に沿って説明し、同意書を得ている。急変時や終末期の対応に関する意向確認書も2年ごとに更新している。看取り研修を年1回実施し、今年度も1名の看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が救命救急の指導を受けており応急手当や初期タイプの訓練を行い実践に向けて心掛けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年に2階実施しており、それを運営推進会議の後に行う事で、町内会や地域の方にもご協力をお願いできる。	感染症流行により、年2回昼夜の火災を想定した自主訓練を実施している。以前は運営推進会議時に実施し、消防署や地域住民の協力を得ている。感染症収束後は、職員の救命講習受講を順次進める予定である。	地震時の室内の危険箇所を確認すると共に、ケア別の個別対応について話し合い、議事録をマニュアルなどに綴り定期的に確認するよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の個性や人格プライバシーを尊重するよう心がけ、その人に合った対応を心掛けている。	「さん」付けで呼びかけを行っており、日々のケアも利用者を尊重する言葉かけを意識している。申し送りの際はアルファベットを使用しプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや希望を受け止め、自己決定が出来る様に対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望に添って生活出来る様に支援することを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望を取り入れたり職員のセンスでコーデをネイトをして提案したりして、おしゃれを楽しんでもらっている。		

グループホーム春光

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	桜餅や蓬もち、ホットケーキ等を一緒に作ったり、ジブリのパーティーや鍋パーティーなどで楽しんでいる。	誕生日や行事の際は献立を変更し、利用者希望の寿司やラーメンなどを楽しんでいる。事業所の畑で取れた野菜やスイカ、葡萄、収穫したヨモギでヨモギ餅を作るなど季節の食材や料理も楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の状況に応じて量、形態食器、時間などを考慮して過不足の無いように提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個人の状況に合わせて口腔ケアをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンをつかみ、出来る限りトイレでの排泄が出来る様に支援している。	個人記録に排泄状況を記録している。個々の排泄のパターンを把握し、適切な声かけ誘導を行い失敗を減らしている。身体状況に応じて日中もベッド上で排泄用品を交換している利用者もいるが、時間帯や状況に応じてパッドの大きさを使い分けるなどの支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医と相談して、その人に合った便秘薬を処方してもらったり、水分や運動など工夫捨て居る。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、その日の中で出来るだけ希望に添う様にしている。	火曜、金曜日に入浴支援を行い、一人当たり週2回入浴している。浴室内に新たに手すりを設置することで、浴槽に入れる利用者や、自力で入浴できる利用者が増えた事例もある。入浴剤や職員との会話も利用者の入浴の楽しみとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人のライフパターンに合わせて生活出来付様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋をいつでも目の届くところと置き、確認している。申し送り、状況を確認して、投薬、減薬している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の趣味、嗜好等を考慮して可能な限り援助して楽しんでいただいている。		

グループホーム春光

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は残念ながら、出来てはいない。	天候のよい日は、事業所周辺や近隣の公園に車椅子の利用者も一緒に散歩に行っている。春は桜の見学も行えた。感染症収束後は以前行っていた畑作業や葡萄の収穫など、外気に触れる機会やドライブでの花見などの外出行事も再開したいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症で重度の方が多くご家族の希望も有って個人でお金を持っている方は居ない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使えるが、耳が遠かったり、リモートも理解できない事がある。1名の方が、娘さんと毎日手紙のやり取りを楽しんでいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節のお花を飾ったり、花壇の見える所に椅子を置いたり、棟内は自由に行き来できる。	対面式キッチンに面したリビングは広々とした空間で、ソファやテーブル、椅子が複数設置されている他、テレビなども複数あり思い思いの場所で過ごすことができる。行事に合わせたクリスマスツリーや雛人形、手作りの装飾も施しており季節感を感じることができる。廊下には利用者の写真が多く飾られており、温かみのある空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルが2か所にありどこでも自由に過ごす事が出来1人で過ごす事も、みんなでテレビを観たり歩き回っていたりできる		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具や寝具、仏具など好みに合わせて配置している。	ベッドが備え付けられている居室には、以前から使用しているタンスなどの使い慣れた家具やテレビなどが持ち込まれている。人形やぬいぐるみなどの小物や家族写真、職員手作りの装飾品が飾られている部屋もあり、生活感がありながら整理された居室が作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており安全性に配慮している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム春光

作成日：令和 4年 4月 8日

市町村受理日：令和 4年 4月 12日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	コロナ禍の為、通常の会議が行えず、身内みの開催となっています。参加予定の町内会長や、地域包括の方、ご家族には、状況報告として、春光新聞を作り届けていますがこれといった反応は得られず、一方通行のような状態でした。	コロナが終息して、通常の会議を開ける様になればいいのですが、そうでなければ、もっと積極的な方法で、ご意見やご要望を頂ける様に工夫していかなければならないと思います。	一年間の予定を組み、テーマを記載した会議の案内を御家族に送付して、参加を募り、不参加のご家族のご意見、ご要望を事前に聞き取り、会議に活かす様にする。	1年間
2	23	ご本人やご家族の意向を聞き希望に沿うように務めている。困難な場合でも、話し合いをして、理解を得られるように務めている。アセスメントシートを活用するようにはしているが、不十分であった。	一人一人の、生活歴や趣味、嗜好を理解して、ご本人やご家族の納得の得られるように努力したい。	生活歴の情報を充実して趣味や嗜好なども具体的に記録をし、変化に応じて対応出来るように、定期的に更新する。	1年間
3	26	生活状況を職員間で共有して、介護計画に反映しているが、評価が十分に反映されていなかった。	具体的計画内容に沿って評価された変化を反映させ、現状に合った介護計画にする。	ご家族、ご本人、医療関係者、職員等の意向、意見、要望を聞き入れ、現状に即した介護計画を実施したい。	1年間
4	35	火災時の避難訓練や、水害時の避難のシミュレーションは行っているが、地震の対策がおろそかになっていた。	火災、水害は無論のこと、地震時にも迅速に対応できるように、日ごろから意識していく。	入眠時、入浴時などの避難方法の具体的な方法を職員間で共有して、定期的に確認し合う。	1年間
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。